

---

## 日本災害看護学会ネットワーク活動調査調整部による初期調査活動の評価

(西上あゆみほか、日本災害看護学会誌 14: 24-3, 1993)

2013年10月11日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

---

### ○導入・研究目的

日本災害看護学会では、災害時の看護ニーズをデータベース化し、系統立てた災害看護活動の構築を目指している。その中で、被災地域への調査活動を専門とするネットワーク活動調査調整部を設置しており、調査活動では災害の種類別に学会独自に一定の基準を設け、調査対象とする災害を選定している。

調査活動の目的は、災害看護に携わる研究者が実際の被災地に直接連絡し、災害看護の視点で被災状況、災害時のニーズに関するデータを収集、分析することにより、看護ニーズを体系化しようとするためであるが、その調査方法については、倫理的な観点からも被災地域や対象者への調査に伴う負担について深く吟味されなければならない。

本研究の目的は、平成21年度に電話やメールを用いた初期調査を受けた方の本調査活動への意見を調査することによって、初期調査活動の有用性や妥当性、課題について明らかにすることである。

### ○用語の定義

ネットワーク活動調査調整部

：日本災害看護学会ネットワーク活動委員会において国内で発生した一定規模以上の災害に対して、初期調査及び初動調査を実施する部門。

初期調査

：被災地の組織会員や個人会員などのネットワークを活用し、電話で情報収集を行う方法を用い、被害状況の確認、ケアニーズなどの把握を目的とする調査。

初動調査

：直接被災地に赴き調査を行う方法を用い、被害情報の確認、ケアニーズなどの把握を目的とする。

### ○平成21年度に実施された初期調査

平成21年度に扱った災害は40事例あり、電話、メールによる初期調査の件数は総数79件であった。対象となった施設は、職能団体や行政機関、医療施設、看護系大学、社会福祉協議会であった。

## ○研究方法

対象者は平成 21 年度の初期調査において協力した施設で個人が特定できた 54 名である。調査内容は、対象者の性別・年齢・災害に関する経験・ネットワーク活動調査調整部の初期調査に関する記憶の有無・時期・質問内容の適切性・全般的な意見・日本災害看護学会の認知・初期調査活動の必要性・その情報収集方法・今後の協力の有無である。

## ○結論

初期調査活動については、調査時期、内容ともに調査対象期間にほぼ肯定的に受け止められていることを確認した。

日本災害看護学会やネットワーク活動調査調整部の調査活動については、関連機関に十分浸透しているとは言えず、初期調査活動が日本災害看護学会の活動などを知る契機となっており、活動そのものが災害看護学会の広報活動も担っていると考えられる。

被災地にとって有用な調査活動方法を調査活動の実践を通して、さらに検討し、体系化していくことが課題である。その中では情報提供をどのように蓄積し、フィードバックしていくかについても検討されなければならない。